

たちわきししまい
114. 立脇獅子舞

■ 指定日

昭和53年11月7日

■ 種別

無形民俗文化財

■ 年代

江戸時代

■ 所在地

朝来市立脇

■ 所有者

保存会(立脇区)



■ 内容

立脇の獅子舞は、播州吉富の系統である。

10月の秋の祭礼に地区内の一ノ宮神社で奉納したのち、各氏子宅を回り、区内の広場にて奉納の演舞を行う。

同じく市指定文化財の「羽瀧獅子舞」の重厚な調子と比べ、動きの激しさに特徴があるといわれる。そのためか獅子頭も比較して小振りであり、動きやすさを重視しているものと思われるが曲目は共通したものがある。

剣の舞、歌の舞、屋島、ほらいり、ほらがえり、早替わり、四方舞、新丸、扇の舞、ぼたん、花、えひらい(失伝)、花魁道中、花掛かりなどである。

囃子が少ないことも、羽瀧獅子舞と異なっている点であり、立脇の場合、囃子が伴うのは「花」、「花魁道中」の2曲のみである(「えひらい」にも囃子がついていたとされるが現在は失伝している)。

囃子は横笛に太鼓が加わる。